

NPO法人 ふらっとスペース金剛

2003年に子育て仲間5人ではじめた活動をNPO法人化し、2005年から富田林市の委託事業となり、現在は市民会館、コミュニティセンター、文化ホールの一室など市内4か所で地域子育て支援拠点事業を運営しています。

「お互いさま」と助け合う子育て支援を仲間とはじめ

小学校4校、中学校2校が存在する「金剛ニュータウン」の一角にある民家を借りて、子育て中の母親5人が中心となり、2003年に親子が集える居場所活動をはじめました。知り合いのいない場所で子どもの友達探しに苦勞したり、孤立した子育てでしんどい思いをしたりした経験がきっかけです。誰でもふらっと気軽に立ち寄れる場所、フラットな関係でお互い支え合う場所にしていきたいという思いから、「ふらっとスペース金剛」と名づけました。

地域の中で、親も子も育ちあう

住宅地の中の民家で活動をはじめたので、近隣の人たちから親子が受け入れられるために力を注ぎました。親子だけでなく近隣の人

が立ち寄りやすい雰囲気を出すために、毎日のメッセージボードを玄関に出したり、校区福祉委員が実施している子育てサロンにボランティアに出向いたりなど、地域とつながる工夫を続けています。子どもに関わる団体や幼稚園、小学校、中学校、PTAのネットワークに参加し、中学生の職業体験の受け入れや地元の大学生ボランティアの受け入れを積極的にすすめています。

支援者が地域とつながることで、親子が地域で暮らす一員となっていけるよう意識しています。「買い物に行つたとき、かわいいね、これからが楽しみやねと声をかけてもらえてうれしかった」「小学校入学後、おおきくなったね、と登校時に声をかけられ、見守られている安心があります」などの声を利用者からきくと、乳幼児は地域の中で成長していくのだと改めて実感します。

ひろば運営の歩み

開設当時からスタッフと利用者親子が、ひろばの中で一緒にご飯を食べることを続けています。「食が細い」「野菜を食べない」「おちついて座らない」など日々の子育ての苦勞話が出ると、他の親子から、どんな工夫で乗り切ったなどのアイデアが出てきて情報交換の場になったり、「私も困ってるわ」という共感の雰囲気生まれたりしています。

「ほっとひろば」では、親子が友達をつかったり、子育て情報を得たりするだけでなく、スタッフに悩みを打ち明けたり、日常のグチを吐き出したりする人もたくさんいます。2人目が切迫早産となり、安静のために外出ができなくなつたが、上の子を外で遊ばせたい。双子が生まれて、手助けが無くて困っている。母親が抱える病気のために、離乳食をつくるのが難しい、などなど。

親子の居場所づくりだけでなく、親がちょっと休息できたり、リフレッシュしたりすることの必要性を感じ、2004年から「ひろ



お庭であそぶ

ばでの一時預かり保育」や「出張保育」をはじめました。また、子育ての手助けが必要となつた家庭との出会いをきっかけに、「一緒に子育てヘルパー事業」を2007年から開始し、家庭に向く支援を積極的に展開しています。

それぞれの子育て家庭のニーズに丁寧に応えながら、子育てを楽しんでできるように、地域と結びついた支援をしたいと思っています。

岡本聡子(NPO法人ふらっとスペース金剛 代表理事)



お昼ご飯の風景



地域の高齢者と交流



ふらっと玄関メッセージボード



ひろばの様子